科目名	法実践演習Ｂ　　Practical Exercise of Law B						
科目担当者	宮田 浩史　　MIYATA Hiroshi						
単位数	1	配当年次	２年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科［専門教育科目　関連科目］ 他学部他学科履修〇					ディプロマポリシーとの関連	(2)(3)
授業の概要	本科目は、入門レベルはクリアしていることを前提としています。そのうえで、公法系科目及び刑事系科目を中心に、司法書士試験・行政書士試験・司法試験予備試験・裁判所事務官試験等の法律専門職の受験を将来考えている方の受講を想定しています。 内容としては、「資格試験に対応した問題演習」と「条文・判例の学修」を基本としています。問題演習は、司法書士試験レベルの将来的な受験を想定した問題をベースに実施し、条文及び判例の説明・解説を毎回適宜実施する予定です（学生の状況に応じて、講義が先にくることもあります）。 また、参考書の利用等についても、希望する試験に応じた利用方法を検討する予定です。 各自がノート PC を持参して双方向的な授業を実施することも予定しています。						
授業の到達目標	各種資格試験取得に必要な公法系科目及び刑事系科目の問題演習を通して、入門の次のステップとして、過去問を解くための基本的知識と理解の習得をめざします。すべての論点等を網羅的に学ぶというよりも、重要論点を学ぶことで、自ら学修するペースを個々人の特性に応じたスタイルで構築することを目標としています。						
授業計画・内容	1	イントロダクション、憲法演習①（憲法の基本原理・人権１）					
	2	憲法演習②（人権２）					
	3	憲法演習③（統治）					
	4	行政法演習①（行政法基礎・行政過程論１)）					
	5	行政法演習②（行政過程論１）					
	6	行政法演習③（行政過程論２）					
	7	行政法演習④（行政救済法１）					
	8	刑法演習①（刑法の基本・構成要件該当性１）					
	9	刑法演習②（構成要件該当性２）					
	10	刑法演習③（違法性・責任１）					
	11	刑法演習④（違法性・責任２）					
	12	刑法演習⑤（未遂犯・中止犯・不能犯・共犯１）					
	13	刑法演習⑥（共犯２）					
	14	刑法演習⑦（刑法各論１）					
	15	刑法演習⑧（刑法各論２））					
授業外学修 (事前学修)	事前の学修としては、指定した教科書の該当部分を読んでくることに加え、指定した問題を自ら解いてくることが必要です。						
授業外学修 (事後学修)	事後の学修としては、関連する問題を自ら解いてみることや、教科書の該当箇所をさらにもう一度読み直すことが効果的です。						
成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法			評価比率		到達目標との対応	
	定期試験での評価が基本となるが、習熟スピードなどをみて、小テスト等の実施を行います。			評価試験 60% 小テスト等 40%		①②③ ①②③	
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	問題集として、「２０２５年度版法学検定問題集（スタンダード中級コース）」※法実践演習 AB 共通。						
参考文献	ポケット六法（令和７年度版)、その他適宜授業で指示します。						
その他	授業中に常時ノートＰＣを利用するので、授業の際、各自パソコンを持参してください。						